

国際標準に対応した道路情報交換の規格策定に向けて

一次世代道路通信標準の構築に関する研究一



高度情報化研究センター

情報基盤研究室 主任研究官 小原 弘志 研究官 橋本 裕也 室長 遠藤 和重

(キーワード) 道路通信標準、ISO、TC204、XML、データ交換、ITS

1. まえがき

現在、国土交通省の道路関係情報を各地の情報センター間で交換するために用いられている「道路通信標準」は国総研が策定してから8年が経過した。これまで細かな改訂は行ってきたが、近年では情報技術や通信環境の進歩により変化してきたニーズに合致しない部分が目立ってきた。このような動きの中、国際的にもXMLを用いた道路関係機関が行う情報通信規格の策定への要望が議論される様になり、国際動向に目を向ける必要性も高まっている。本稿は昨年度から着手している「次世代の道路通信標準」策定に向けた検討の方向性と、国際標準化の動向を紹介するものである。

2. 次世代道路通信標準の方向性

通信規格を標準化する場合に判断が難しい事は、現在の技術動向と将来の技術動向を的確に把握し、予想する事であるといえる。現行の道路通信標準の策定時には将来動向が予測しにくかった結果、現在の主流となっている技術から乖離している。新しい道路通信標準では現在の主流かつ、将来においても一定の利用が予測できるXMLの採用を前提に検討を進めている。また、現行規格の課題でもあったローカルシステムが自由に定義できるデータ辞書の実現と管理の効率化を目指している。

3. 国際標準化の意義と動向

今後、ユーザーの大半が公的な機関になると考えられるこの様な通信規格は、民間主導による国際標準策定が進みにくい傾向にある。しかし、次世代道路通信標準は公的機関の調達時に要求仕様として利用される可能性が高く、非関税貿易障壁に関する判断の対象となる可能性が高い事から、

国際標準への対応は不可避であると言える。

道路関係機関が行う情報交換規格のXML化は、米国は既に国内規格を策定し、欧州でも策定に向けた検討が進められている。さらに、ISO・TC204において国際標準の策定が議論されている。国総研では次世代道路通信標準の検討と平行して国際会議に参加し、検討の方向性や各国の動向に関する情報収集の他、積極的な提案活動を通じて国際標準の策定作業に参加している。

これまでの国際会議の議論において、日本から提案した規格の枠組みや方向性に関する提案が認められ、この標準規格の検討は日本がリードする事となった。国総研では、この規格の検討において主体的な役割を担う事となった事から、国際標準に適合した国内製品市場の構築を支える為の基準作りに取り組んでいくものである。

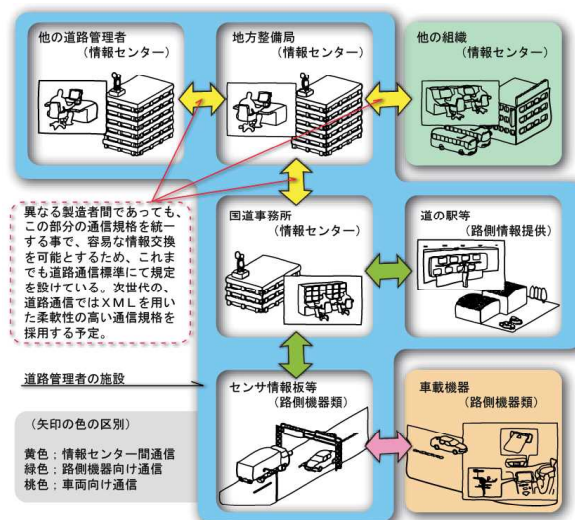


図1 道路通信標準の利用イメージ

<http://www.nilim.go.jp/lab/qbg/index.htm>

(情報基盤研究室)